

NEWSLETTER

比較経済体制学会

NO.30 JUNE 2008

Contents

- 2008年度比較経済体制学会第48回全国大会を終えて
- 比較経済体制学会2008年度第7回秋期大会のお知らせ
- 編集委員会からのお知らせ
- 比較経済体制学会第48回会員総会議事録
- 新入会員のご紹介
- 幹事会だより
- 2007年度会計報告および2008年度学会予算
- 事務局だより

2008年度比較経済体制学会第48回全国大会を終えて

2008年5月31日と6月1日の両日、高崎経済大学において、共通論題「体制比較の多様なアプローチ」のもと第48回全国大会が開催されました。大会前日からのあいにくの雨にもかかわらず、大会への参加者は総勢93名でした。首都圏の北の外れにあって、ふだんは足の向かない土地での開催にもかかわらず、多くの方々にご参加いただきました。

大会は大津定美代表幹事の挨拶と上垣彰大会プログラム委員長の共通論題解題をうけて開始されました。共通論題1「体制比較の多様なアプローチ」では松井康浩氏、林忠行氏、五十嵐徳子氏を招待講演者としてお招きし、上垣彰会員の報告、家田修会員のコメントを交えて活発な討論が行われました。また、自由論題Aでは藤井大輔会員の報告と日置史郎会員のコメント、自由論題Bでは池田太郎会員、小出秀雄会員の報告と中村靖会員と阿部新氏のコメントを中心に、活発な議論が展開されました。

大会2日目は、佐藤隆広氏を招待講演者としてお招きし、石川健会員、丸川知雄会員の報告と堀江典生会員のコメントを交えて、共通論題2「雇用と成長：多様なアプローチ」をめぐって

熱い議論が戦わされました。また、自由論題Cでは家本博一会員、柳原剛司会員の報告と吉井昌彦会員のコメント、自由論題Dでは森彰夫会員、今井雅和会員の報告と藤森信吉会員、加藤志津子会員のコメントを交えて、積極的な討論が行われ、たいへん充実した大会となりました。

大会当日は大会の運営にあたり、組織委員の今井雅和会員と日臺健雄会員に大会サポートスタッフとしてご尽力いただき、また多くの会員の方々にご協力いただきました。記して感謝いたします。

(岡田和彦大会組織委員長記)

緑多い高崎経済大学のキャンパスで本当に行き届いたもてなしをしていただきました。高崎経済大学学長吉田俊幸先生をはじめ、組織委員の先生方、高崎経済大学学生諸君に心から御礼申し上げます。また、高崎市からは本大会開催に対し助成金を頂きました。岡田和彦大会組織委員長のご尽力と高崎市のご厚情に深く感謝いたします。

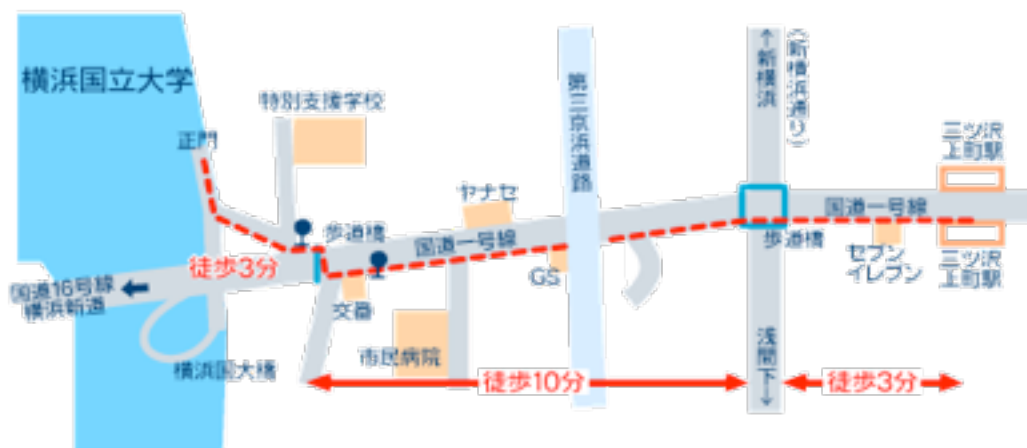
(事務局一同)

比較経済体制学会2008年度 第7回秋期大会のお知らせ

～暫定プログラムのお知らせと自由論題の募集～

下記の通り、比較経済体制学会第7回秋期大会の暫定大会プログラムを編成致しました。みなさま奮ってご参加ください。また、自由論題（分科会）の募集も合わせて開始致します。会場の都合上、報告者数に上限がございます。報告希望者は、お早めにプログラム委員会へお申し込み下さい。応募期限は、8月末日です。

日時：平成20年10月18日（土） 10：00～17：30（開場9：30）
会場：横浜国立大学 教育文化ホール（〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1）



鉄道：横浜市営地下鉄三ツ沢上町駅（徒歩約13分）

バス：横浜市営バス・相鉄バス『岡沢町』下車

くわしくは、交通案内(http://www.ynu.ac.jp/access/acc_index.html)をご覧ください。

自由論題報告者募集！！

下記の要領で、自由論題の報告者を募集いたします。報告希望者は、2008年8月末日までに、プログラム委員会・岩崎へ、Eメールでお申し込みください。

- (1) 募集人数 9名
- (2) 募集報告テーマ
 - － 社会主義経済論の巨人達（ブルス、コルナイ、ノーヴの人と業績、など）
 - － 比較経済分析の方法論
 - － 資本主義多様性論
 - － 移行経済論（家計・農村経済、汚職問題、労働・福祉政策、企業金融、など）
 - － 双頭体制ロシアの政治と経済
 - － その他
- (3) 報告時間 25～30分程度
- (4) 論文提出 フル・ペーパー又は報告要旨(A4・5枚程度)を、大会30日前までに御提出頂きます。
- (5) その他 パネル提案も歓迎いたします。代表者より、パネル・タイトル、座長、パネリスト、討論者を記したプログラム案をご提出ください。

大会プログラム

- 09:30 開場
 10:00 開会の辞 大津 定美 代表幹事 (大阪産業大学)
 10:05 共通論題1 (大集会室)
 『社会主義経済体制論におけるブルスとコルナイ：回顧・評価・展望』
 座長：大津 定美 (大阪産業大学)
 パネリスト：佐藤 経明 (横浜市立大学名誉教授), 中兼 和津次 (青山学院大学)
 盛田 常夫 (Tateyama Laboratory Hungary Ltd.)

趣旨：社会主義崩壊と資本主義市場経済への移行が開始されてから20年近くになろうとしているが、この過程は同時に「グローバリゼーションとアメリカへの一極集中」という国際政治・経済の再編プロセスと重なり、理論的な意味での「体制比較」を困難にしてきた面がある。他方、そろそろ「移行は終わったか」という問いに当学会としては、一応の結論を得なければならない時期かとも思われる（必要ない、という立場ももちろんありうるが）。そこであらためて社会主義とは何だったかを、理論と学説史視角から再考してみてはどうか。とくに当学会では、種々の意味で世代交代の時期を迎えており、かつての社会主義理論と距離のある世代の会員も増えつつあるかに見える。また、9・11以後世界経済と政治は大きく様変わりし、いまそのグローバリゼーションにも陰りが見えつつある。こうした時期に、社会主義理論の構築と普及に絶大な影響力を及ぼしたブルスとコルナイをいま一度振り返る機会を持つことは、当学会にとって一定の意義を持つのではないか（大津）。

- 12:00 休憩／学会幹事会 (小集会室)
 13:00 共通論題2 『家計と貧困の移行経済論』 (大集会室)
 座長：林 裕明 (島根県立大学)
 パネリスト及び報告タイトル：
 小原 江里香 (昭和女子大学/津田塾大学 非常勤)
 「中国農民の出稼ぎ行動と土地保有：四川省農家マイクロデータ分析」(仮)
 武田 友加 (早稲田大学)
 「ロシアにおける経済成長と貧困」(仮)
 樋渡 雅人 (東京大学 日本学術振興会特別研究員)
 「ウズベキスタンにおける家計行動と貧困：プライベート・トランスファーの分析」(仮)
 討論者：巖 善平 (桃山学院大学), 雲 和広 (一橋大学), 岩崎 一郎 (一橋大学)
 15:00 コーヒー・ブレイク
 15:30 自由論題 (分科会報告) (大集会室・中集会室・小集会室)
 17:30 閉会

○第7回秋期大会プログラム委員会

委員長：岩崎 一郎(一橋大学) e-mail: [iiwasaki\(at\)mark.ier.hit-u.ac.jp](mailto:iiwasaki(at)mark.ier.hit-u.ac.jp)

委員：大津 定美(大阪産業大学)・丸川 知雄(東京大学)・杉浦 史和(帝京大学)

○第7回秋期大会組織委員会

委員長：中村 靖(横浜国立大学) e-mail: [y-nkmr\(at\)mark.ynu.ac.jp](mailto:y-nkmr(at)mark.ynu.ac.jp)

委員：長谷部 勇一(横浜国立大学)・木崎 翠(横浜国立大学)

大会事務局：〒240-8501 神奈川県横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1 横浜国立大学経済学部

Phone: 045-339-3527/Fax: 045-339-3574

編集委員会からのお知らせ

『比較経済研究』第45巻第2号は予定通り6月中の刊行をめざしています。同号には、論文2本、研究ノート1本、書評6本が掲載されます。

また、現在、学会機関誌『比較経済研究』の第46巻第1号への投稿を募集しています。この機関誌は厳密なレフェリー制投稿誌として年2

回発行しております。積極的な投稿を期待しております。

1. 募集原稿は、論文（400字×55枚以内）、研究ノート（400字×45枚以内）、書評（400字×17枚以内）の3種です。
2. 第46巻第1号の原稿締め切りは8月31日です。（第46巻第2号の〆切は2008年12月15日頃を予定）。
3. 原稿は、編集委員長および各号の編集担当責任者に電子メール添付ファイルでお送りください。
-編集委員長は、第1号、第2号とも中村靖会員（横浜国立大学、y-nkmr@ynu.ac.jp）です。
-第1号の編集担当責任者は、雲和広会員（一橋大学、kumo@ier.hit-u.ac.jp）です。
4. 原稿の書き方は「学会機関誌投稿・執筆要綱」をご覧ください、それに厳密に準拠してお

書きください。段落冒頭の字下げはスペースではなくタブで行う、英数字は半角とする、『』（等のカッコやハイフンはすべて全角で書く、表中の文字はゴシックにしない（初期設定を変更する）、表の一マスの文字数を少なくする、図をカラーで書かない（白黒印刷で見分けられるか注意する）など、いろいろな注意点があります。「要綱」を最後までよく読んでください。形式がずさんな原稿は受け取りを拒否する場合があります。これは、経費削減のため編集委員自身がかなり専門的な編集作業を行うために必要なことなのです。ご協力をお願いします。

ご不明の点は上記雲会員までどうぞ。

（学会機関誌編集委員会）

比較経済体制学会第48回会員総会議事録

総会に先立ち、第一回研究奨励賞授賞式が行われ、大津定美代表幹事より受賞者である武田友加会員に賞状と副賞の図書カード5万円分が授与されました。

会員総会議長に藤田整会員が選出され、総会が開催されました。総会は、配布資料とプロジェクター資料にもとづいて進められました。以下、報告事項と審議事項に分けて記載します。

報告事項

1. 丸川メンバーシップ担当幹事より退会者の報告が行われました。退会者は、今村弘子、真木実彦、大井則生、杉田憲道、松井暁、尹文植、金子由芳、長山浩章、新村忠宏、ジャミアン・ガンバト、何立新の11名（敬称略）でした。
2. 会配布資料をもとに事務局長より2007年度会務報告が行われました。
3. 海外会員の会費支払いについての特例措置について、丸川メンバーシップ担当幹事より報告がありました。事務局では海外在住会員のクレジットカードによる会費支払いを可能にしたが、あくまでも海外在住会員限定の特例措置である旨の説明がなされました。
4. 日本経済学会連合平成20年度外国人招聘滞在補助・国際会議派遣補助・学会会費補助の事務局締め切りは5月末日でしたが、応募者ゼロであったこと、日本経済学会連合発行の『英文年報』をご覧くださいの方は、事務局まで請求とのこと、同『英文年報』第28号（08年12月発行予定）に丸川幹事が執筆予定であること、などが、事務局長より報告されました。
5. 学会機関誌『比較経済研究』について：第45巻第2号は6月発行予定、第46巻第1号は、投稿募集中、締め切りは8月末日であることが事務局長より報告され、幹事会で委嘱された新編

集委員・委員長の紹介が行われました。新委員長は中村靖、委員は東日本：酒井正三郎、雲和広、武田友加、西日本：小西豊、白石麻保です。

6. 大会準備状況について、まず、2008年度秋季大会のプログラムと報告者募集について岩崎一郎プログラム委員長より説明がありました。2009年度全国大会（國學院大學）について、事務局長より大会組織委員長に尾近裕幸が幹事会より指名され、大会プログラム委員長に酒井正三郎会員を指名したことが報告されました。

7. 第二回研究奨励賞について、事務局長より審査委員5名の指名が幹事会より行われたこと、9月末までに審査が終了し、ニューズレター等で審査結果を公表する予定であること、来年度の研究奨励賞へも積極的に応募を期待することなどが報告されました。

8. 将来の学会財政安定のため、会員数の拡大に会員の協力を要請する旨、事務局長より報告されました。

審議事項

1. 新入会員の承認について、丸川幹事より12名の入会希望者の説明があり、総会にて承認されました。
2. 2007年度決算について、事務局長が雲会計担当幹事の報告を代読し、会計監査の斉藤会員より会計監査上問題なしとの報告をうけ、2007年度決算書は会員総会にて承認されました。また、会計監査の斉藤会員より、①会計期間についての見直し（3月末締め提案）、②現金主義に基づき、一ヶ月以内の請求、③会計担当幹事が海外赴任になった場合に柔軟に幹事会で会計担当幹事の交代を検討すること、などの意見が提出された。それを受けて、代表幹事より、

検討すべき重要な意見であるとし、幹事会で検討するとの応答がありました。

3. 2008年度予算について、事務局長が雲会計担当幹事の2008年度予算案の説明を代読し、会員総会にてその予算案が承認されました。ただし、予備費の内訳として計上されているWebサイト維持費は、事務局経費として独立した項目にすべしとの田畑伸一郎会員からの提案があり、事務局としてその提案を採用し、予算書を修正するとの答申がなされ、会員総会としてそれを承認した。

4. 京都大学経済研究所西村和雄所長より代表幹事に宛てて、京都大学経済研究所の全国共同利用機関・共同研究拠点化への推薦があり、代表幹事は推薦したい意向を説明し、幹事会も推薦することを提案しました。会員総会全会一致で比較経済体制学会として京都大学経済研究所の全国共同利用機関・共同研究拠点化を推薦すること、推薦状の文面や形式等は代表幹事に一任することが承認されました。

新入会員のご紹介

2008年度新入会員のみなさまをご紹介します。新入会員のみなさんの加入により、2008年度会員総数は290名（うち院生会員は44名）となりました。

赤津めぐみ（横浜国立大学大学院国際社会科学研究所:院生）
 荒川憲一（防衛大学校防衛学教育学群）
 池田太郎（神戸大学大学院経済学研究科:院生）
 王京濱（大阪産業大学経済学部）
 源河朝典（帝京大学経済学部）
 柴田脩平（東京大学大学院経済学研究科:院生）
 Zinkovskaya Elena（東北大学大学院経済学研究科:院生）
 谷岡隆（習志野市議会:議員）
 東島雅昌（早稲田大学大学院政治学研究科:院生）
 樋渡雅人（東京大学東洋文化研究所:学振PD）
 堀井伸浩（九州大学大学院経済学研究院）
 湯浅剛（防衛省防衛研究所）

幹事会だより

大会前日、総会に先立ち、第三回幹事会が行われました。出席3分の2以上で幹事会は成立しました。総会議事と重複する部分もありますので、以下簡単に議事録をご紹介します。

報告事項

まず、事務局長より2007年度会務報告、日本学術会議・日本経済学会連合関連の報告が行われました。次に、2008年度秋期大会準備状況について、岩崎プログラム委員長より報告がありました。2009年度全国大会が國學院大學で開催される予定であること、大会組織委員長に尾近裕幸会員が委嘱されたことについて、確認が行われました。丸川メンバーシップ担当幹事より、海外会員の会費支払手段についての特例的事務処理について報告がありました。事務局長より第二回研究奨励賞審査進展状況について報告がありました。

審議事項

丸川メンバーシップ担当幹事より新入会員・退会会員について説明があり、入会者・退会者

とも承認された。2007年度決算について、雲会計担当幹事の説明を事務局長が代読し、2007年度決算が承認されました。2008年度予算について、雲会計担当幹事の説明を事務局長が代読し、同じく承認されました。

研究奨励賞について、応募者が少ないこと、事実上博士論文でなければ応募できないような印象をもたれていることなどについて、討議された。今後、研究奨励賞対象論文について、二本立て（博士論文を対象とした奨励賞・一般論文を対象とした奨励賞）方式や、応募論文、大会報告論文および学会機関紙掲載論文から優秀論文を選ぶ方式など、様々な奨励賞のあり方を検討していくことについて確認しました。

前回幹事会からの継続審議となっていた学会財政について、雲会計担当幹事の説明を事務局長が代読し、雲会計担当幹事の2010年までの財政シミュレーションの結果、当分十分な繰越金があるとして、財政問題は危急の問題ではないことが確認されました。ただし、学会員数拡大は今後も課題であり、会員拡大のための協力を会員へ呼びかけることが確認されました。

事務局だより

大津代表幹事のもとでの事務局運営もようやく一年がたち、折り返し地点に至りました。この間、幹事の方々、多くの会員みなさまに心優しい気遣いと助力を頂いてまいりました。至らぬ点が多いとは存じますが、こうしたみなさまのご支援のおかげでなんとか一年を乗り切った気がします。

秋期大会のお知らせと自由論題応募を、このニューズレターに掲載していますが、例年以上に周到な準備が行われており、秋期大会としてはかつてないほどの充実したプログラムができあがっています。大会プログラム委員長岩崎会員と組織委員長中村会員の尽力の賜です。事務

局として、秋期大会成功に向けて、多くの方々の自由論題応募と秋期大会ご参加をお願い申し上げます。

また、今年度より新しい編集委員体制で学会機関誌の編集が始まりました。学会機関誌の発展もまた、みなさまの積極的な投稿が礎となります。

2008年度も事務局一同力を合わせ会務をつとめます。皆様のご理解とご助力をお願い申し上げます。

(事務局)

ニューズレターNO.30 発行

2008年06月27日

比較経済体制学会事務局

〒930-8555 富山市五福3190 富山大学極東地域研究センター 堀江典生

Tel. 076-445-6436 Fax 076-445-6520

E-mail: [horie \(at mark\) eco.u-toyama.ac.jp](mailto:horie(at)mark.eco.u-toyama.ac.jp)

<http://www.soc.nii.ac.jp/jaces/index.html>

メンバーシップ管理担当幹事 東京大学 丸川知雄

E-mail : [marukawa \(at mark\) iss.u-tokyo.ac.jp](mailto:marukawa(at)mark.iss.u-tokyo.ac.jp)

会計担当幹事 一橋大学 雲和広

E-mail : [kumo \(at mark\) ier.hit-u.ac.jp](mailto:kumo(at)mark.ier.hit-u.ac.jp)